

終運報丙第一九一號發終連三部受嬉野事務官  
涉昭三五  
外課

時間一四三〇

參考情報 (一般配布)

各受入港受入並送還人數豫報

(第四號)

終戰連絡中央事務局交通部海運課  
昭和二十一年五月十一日 朔

0564

一 概況

四月後半以降聊か低調裡に推移した引揚輸送も五月後半には胡蘆島引揚の旺盛並に南方々面帰還船の漸増により除々乍ら活況に転じ船舶輸送力も鈍たる全国一日平均受入人数は二七、二七〇人に達する見込であり、續く六月半の豫想としては胡蘆島引揚今後の推移如何に依り豫想困難であり、更に滿洲北鮮の本格的引揚開始無き限り北中支の引揚激減と共に受入人数も再び減りし三、四、五、九、六人程度となる模様であり、

何以にこそカソ聯勢力下邦人の本格的引揚なき限り近海就航船の船腹は若干過剩の傾向となり、ある時は支那/朝鮮其他外地間輸送に振向けられ居る船腹の五割以降特に増加せる現象(五月十日現在LST十二隻りバテリ二隻計十三隻は一應速目可成り事柄であり、)

次に九州 山陽(実交仙崎) 東日本の地域別に分ち一日平均受入人数を観る

九州

(五月後半) 一三、八六二

(六月前半) 一三、一八三

(六月後半) 滿洲の引揚無き限り減少

山陽 五九四八 四八三二 前期と畧々同様

東日本 七四六一 七五八一

計 二七二七〇 二四五九六 不詳

右の如く前号(第三号)豫想に比し五月後半東日本の増加せるは田辺入港の南方  
帰還船の入港豫定若干繰りたるものであり又六月前半九州の増加は胡  
蘆島並北支該部の引揚船の断続的入港が豫想せらるゝに至つたため  
あり可

送還に就ては前号既報の通り九月末迄博多、仙崎より朝鮮人等を一日三〇  
〇〇及一〇〇〇人の送還があり可が実情不振にも之の計画輸送に腐心し厚  
現状であり可

二各受入港別受入並送還人数の豫想

五月十日現在に記般計画を觀た今各受入港一日平均受入並送還人数の  
豫想に就ては次表の通りであり可が第三節以後の顯著事項ともは胡蘆

0566

島引揚開始約一旬の通延 五月末乃至六月初旬田辺の繁化 北支引揚育  
への若干持越等があつ又配船先の異動といはバタビヤ ソロン マクノワリ マール  
の開始並にマニラへの臨時配船等があつ可

0567

各受入港別豫想

港名	月別	五月後半	六月前半	六月後半以降
博多	7,500人	胡蘆島上海南朝鮮 一日六、〇三三人 朝鮮人送還百三三人 なすも不振	五月後半 六月後半 朝鮮人送還三〇〇人	満洲不格的引揚を限 四、〇〇〇人以下に減 二海は七月末終了の予定 朝鮮人送還三、〇〇〇人 九月末終了
佐在保	5,000人	胡蘆島上海南朝鮮 ミラウリ一日五、五七五人	パンニンミラウリ切込 等より軽減し 三八七人	北支終了満洲不格的引揚 なす限り更に軽減五八八人 上海は七月末終了予定 相当軽減の見込なきも南 支入港と存続す
鹿児島	5,000人	西貢上海より 一日二、三三三人	五月後半 二、三三三人	北支終了二、三三八人上海は 不終了の予定但し満洲 北支不格的引揚前始の 場合増加す 朝鮮人送還一、〇〇〇人 九月末終了
仙崎	5,000人	北支上海南朝鮮より 一日二、五三八人 朝鮮人送還一日二、〇〇人 なすも不振	北支半減により軽減し 二、〇八八人 朝鮮人送還一、〇〇〇人	北支終了二、〇〇〇人上海は 不終了の予定但し満洲 北支不格的引揚前始の 場合増加す 朝鮮人送還一、〇〇〇人 九月末終了
大天	8,000人	西貢上海より 一日三、四四四人	二、七四四人	不詳なきも 南方受入港と之繼續の 見込

0568

田 辺	浦 賀	名 古屋	舞 鶴	唐 津	内 司 下 南	函 館
3,000人	5,000人	5,000人	2,500人	2,500人	2,500人	2,500人
南方方面からの入港停止 り受けはマリニズビル 未受入開始シカボト 併せ一日二、三、九八人 に増加あり	セバスカ 一日四、六、七人 但し名古屋(者更とあり) 外に名古屋(者更とあり) 港を在る何れもなるや未定	浦賀コレラ船の現状を候 し、警備にあり シカボトマリニズビル ソノパンナボルトモロ ホーランドヤマクワ 一日四、八、九、七人	一時休止 此際引揚開始の際に日本人受入以 朝鮮人送還に使用の見込	使用時期未定 他の補助港的存在	機雷の爲使用時期未定	一時休止
マリニズビルソール揚切案 により軽減し 約二、三、八、八人 以降も南方受入港として 継続するべし	目下の処入港予定無 コレラ船の処置了らば場合 は南方受入港として受入相 当に増加あり	バタビヤ、ホーランド揚 切ソロン受入あり 四、一、九、九人 まて、下りも浦賀コレラ船 の処置が済み、所り、本港の警 備は継続する見込				

0569

備考	總括	54,000人
	受入一日 二七二七〇人 送還一日 四〇〇〇人	受入 二四五九六人 送還 四〇〇〇人
	受入未詳なるも滿洲北鮮本格的受入開始の際に増加す 送還四〇〇〇人 九月末終了	

本表に於ける日平均受入人数は当該航路の受入期間が「月半期」以内に止る場合は当該使用船舶輸送力の十五分の二とし「月半期」以上に亘るものは「應月間輸送力の三分の一」とし算定す

0570

三外地各方面引揚完了見込

外地邦人の引揚船は現在台湾南支北支印支順次終了し北支の残却並南方諸地域へ集注して居る事。之が引揚完了見込に就ては概算別表の通りである。

北支は一部戦犯関係者共他と残し大抵五月中に終了。中支といは内題は武漢其他奥地より上海集結如何にかつて居る順調に行けば七月末迄に完了する見込である。

又南部印支は目下西貢へ大擧艦船四六隻が配船され居る現状よりして五月中には終了が豫測せられラホールも五月末完了。又現在配船され居る船舶の輸送力も概ねは現地集結状況へ良好なればスバワセレスマノクワリオリンディアは五月中に大抵終了。ハルマヘラセラム南部ホルネオ等も意外に早く六月中に大抵終了と見るとも思はれり。

其他南方地域も豫想される船舶輸送力を以て可れば一応七月末迄に完了。

0571

し得る見込であり、可成り現地の集結状況不明のものもあり、はとも順相に行くとは云ひ難く、旁々其の同満洲北鮮等の本格的引揚開始の生可れば此の方面は相当進捗し、今秋に入ることも豫想されたり。

次に中部太平洋は六月以降比島は七月以降天々引揚再開の筈であり、可成り邦人数もさりと大なる一二月で引揚終了可能であり。

尚題は満洲北鮮、千島、樺太の所謂ソ聯勢力下邦人ニセらるる引揚であり、現在の胡蘆島引揚が満洲本格的引揚の序幕ともなはるべきであり。

因みに現在輸送に使用し居る船腹は修繕船も含め

リバティ型	一〇〇隻	七〇〇,〇〇〇總噸(輸送力)	三五〇,〇〇〇人
L S T	八五隻	三二五,〇〇〇	一〇二,〇〇〇人
日本 商船	四五隻	一八六,六六二	八九,三〇〇人
日本 艦艇	一一〇隻	二三八,九二〇排水屯(リ)	九六,九一五人
計	三五〇隻	一,〇九九,一六二總噸(排水屯)	六三八,二五五人

外に鉄道連絡船二隻、病院船九隻(内六隻リバティ型改装船)であり。



各受入港別埠運輸状況表  
(五月十一日現在配船計画に據る)

地方	受入港	引揚港	使用船種	月間航路	月間進出港数	月間輸送力	一日平均上陸人数	備考		
九州	博多	釜山	商	8隻	5回	40隻	10,000	(333)	繼續	
			鉄	-1	15	15	(22,500)	(750)	"	
			上海	V	10	3	30	105,000	3,500	"
			胡蘆島	商	3	3	9	13,500	450	中旬より受入開始
			計		25	2	50	30,000	1,000	同上
			47		144	181,000	6,033			
三	佐世保	塘沽	Q	36	2	72	86,400	2,880	下旬より受入漸減	
			Q	4	1	4	4,800	160	中/下旬受入	
			Q	15	3	45	54,000	1,800	中旬より受入開始	
			上海	艦	20	2	4	17,600	587	内大隻中旬より西貢へ変更の予定
			マニラ	"	1	1	1	1,170	39	下旬受入
			76		162	163,970	5,466			
島	鹿島	上海	艦	23	2	46	19,000	633	内=隻中旬より西貢へ変更の予定	
			商	17	1	17	50,700	1,690	5月初旬/6月初旬受入	
			計	40		63	69,700	2,323		
			163		369	414,670	13,822			
山	仙崎	釜山	商	5	5	25	(8,000)	(267)	繼續	
			艦	4	7	28	(5,133)	(171)	"	
			鉄	1					欠航中	
			塘沽	Q	9	25	23	27,000	900	下旬より受入漸減
			上海	Q	10	3	30	36,000	1,200	繼續
			29		106	76,133	2,538			
線	吳	西貢	V	10	12	12	42,000	1,400	繼續	
			艦	18	1	18	35,700	1,190	大月中旬より受入増加の見込	
			商	1	1	1	4,000	133	下旬受入	
			フホール	"	2	1	2	4,200	140	"
			艦	5	1	5	4,100	137	中旬終了後西貢/吳へ変更の予定	
			コタイ	"	1	1	1	2,300	77	六月上旬受入
			37		1	92,300	3,077			
			66		145	168,433	5,615			
九州			229		514	553,103	19,437			

0574

地方	受入港	引揚港	使用船種	月間船隻	月間入港数	月間搬送力	一日平均上陸人数	備考
東 日	田 辺	新嘉坡	V	7	1	24,500	816	継 続
		マニラ	V	6	1	21,000	699	五月下旬/六月上旬受入
		シマラ	V	5	1	17,500	583	五月下旬/六月上旬受入
		計		19	1	66,500	2,215	外に本月中旬よりハルマヘラの受入開始あり
本	舞 鶴	一時休止						
		浦 賀	V	2	1	7,000	233	下旬受入(内一隻はメチドのり)
地 区	名古屋	新嘉坡	V	11	1	38,500	1,283	継 続
		バタビヤ	V	2	1	7,000	233	下旬受入(新嘉坡航路運次要時)
		スンバワ	V	6	1	21,000	699	五月下旬/六月中旬受入
		パシヤパシヤ	V	4	1	14,000	467	五月下旬/六月上旬受入
		ラホール	V	11	1	38,500	1,283	中旬受入旺盛
		エロシ	V	2	1	7,000	233	下旬受入
		ホーランド	V	2	1	7,000	233	下旬受入
		エロシ	V	1	1	3,500	117	六月中旬受入
		エロシ	V	2	1	7,000	233	五月中旬/六月中旬受入
		計		39	1	136,500	4,548	
合 計				60	1	210,000	6,996	
	未 定	ハルマヘラ	V	9	1	31,500	1,050	六月中旬受入港開港模様は未定
全受入港總計				298	1	583	24,603	27,483
外 地 南	一 峯 山	塘 沽	Q	3				
		上 海	V	2				
		塘 沽	Q	5				
		祥 山	Q	3				
未 定	浦賀滞船	V	7					
	次航未定	商	1					
修 繕 船		商	8					
		船	23					
		V	2					

備考 (1) 南鮮引揚船の搬送力は引揚用散の現状に鑑み定算の三分の一を計上( )内に記入す  
 (2) 符号 Vはリバー型、QはLST、商は日本商船、鑑は日本鑑、船は鉄道連絡船を示す

